



新風会

本田 順也
議員

▼国勢調査と住民基本台帳について

Q 国勢調査の目的は何か。また今回の調査ではどのようなことを調査するのか。

A 統計法に基づき、十月一日現在のすべての人及び世帯に関する調査で、国及び地方公共団体における各種行政施策のための基礎資料を得ることを目的として五年毎に実施されている。調査事項は、世帯員に関する事項で氏名、男女の別、国籍、居住期間、仕事の種類など、世帯に関する事項で世帯の種類など二十項目の調査が行われる。

Q 前回と今回の調査の違いはあるのか。

A 今回の調査では、個人情報保護意識の高まりを踏まえ、全世帯が調査票を封筒に入れて提出する方法に改善され、昼間不在の人や留守がちな人のために郵送による提出が新たに導入されている。

Q 国勢調査と住民基本台帳の相違点は。

A 国勢調査は住民票などの届け出に関係なく、ふだん住んでいる人をふだん住んで

いる場所で世帯ごとに調査するものである。住民基本台帳は届け出によるもので、届け出の状況が人の判断に左右される。また、住民基本台帳では、住宅や仕事の状況などの実態は得られないが、国勢調査ではそのような行政施策に必要なデータも得られる。

Q 国勢調査のあいまいな点を補うために市ではどのような取り組みをされるのか。

A 全世帯が調査票を封筒に入れて提出することにより調査員が調査票を見ることがないため、より信頼性の高い統計としての資料が得られると考えている。

Q 民生委員の職務のためにも住民基本台帳に変わるものが必要と考えるがどうか。

A 世帯名簿など個人に関する情報は、プライバシー保護の観点から提供していない。

▼少子化対策について

Q 今年の婚活などのイベント活動はどう考えているのか。

A 昨年度はウインターナイトファンタジアめぐりあい事業を実施したが、今年度は、若い人たちの意見を取り入れるため協議会方式で実施したいと考えている。また、農業後継者をはじめ仕事の性質上、異性と出会う機会が少ない方にも着目したイベントの実施に向けて取り組みたい。



新緑クラブ

酒井美代子
議員

▼産業振興における農業政策について

Q 島原市の農業の現状と今後はどう考えているのか。

A 農業生産の現状については、基幹品目である大根、ニンジン、白菜等の野菜や牛、豚、鶏等の畜産に加え、米、花き、葉たばこ等、県内でもトップの生産性を誇っている。今後も消費者の求める農産物を的確に把握し、園芸作物は省力化や規模拡大を進め、畜産は低コスト化や品質向上により産地の強化を図ることが重要である。

Q 産地化、ブランド化、市場開拓についてどう考えているのか。

A 大根、ニンジン、鶏卵などを関西地区を中心に出荷され、出荷時期によっては、消費地において高いシェアを占めるほどの供給量と高い品質を誇っている。こうした農産物の流通確立は、生産者の努力と信頼によって築き上げられたものだが、今後PRを積極的に展開し、一大生産地としての島原のイメージを向上させ、多くの消費

者や流通関係者に認識していただくことで新たな市場開拓を支援していきたい。

Q 他産地、他ブランドとの差別化と認証制度導入の考えはあるのか。

A 本市の代表的な野菜である大根、ニンジンは全国的に広く栽培されている品種が本市でも栽培されており、他産地との差別化は難しい。また品質管理においても、すでにトレーサビリティなどを実施したり、独自の基準で品質管理に努められ、統一的に農産物の品質に対する基準や、認証制度を設けることは難しい。

Q 流通コストを軽減する施策はあるのか。

A 島原の農産物の魅力を認識していただくためのPRを行い、そして取引量をふやすことにより、流通コストの軽減を図ることも一つの方法であるので、ホームページやパンフレットなどで継続して情報発信し、大消費地での物産展やイベントに積極的に出展してPRに努めるということが当面の活動の大きな項目である。

Q 農業経営のあり方で基礎となる担い手の人材確保の具体策はあるのか。

A 農業後継者として新たに従事される方に奨励金を支給する制度を開始し、今後の農業の重要な担い手として大いに期待している。